

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年3月21日			
児童発達支援事業所 北名古屋市ひまわり園					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	6	・利用者が多い時は、場所が狭いと感じる事があり、園庭、廊下、併設している保育園など遊べる場所を考える様にしている。 ・登園人数が多い時は、狭く感じるので、廊下やテラスなども使用して工夫している。	・大人数が苦手な子が安心できる場所がない。 ・登園の曜日を分散して人数が偏らないにすると良いとおもわれる。 ・もう少し療育スペースに広さがあると思う。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	3	・毎朝その日に登園する子ども達の姿を予測して職員の配置をみんなで考えるところに工夫を感じる	・人数は適切であるが親子への職員の付き方を工夫すべきである。 ・毎日復習する時間があると次につながるように思う。 ・正社員もしくは一種の担任を持つ先生が増えたほうが支援が行き届くと思う。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	1	・視覚支援が丁寧にシンプル。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	2		
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	2	・廊下に机と机椅子が設置してある為入室ができない時もそこで過ごしやすい。	・個別の対応が必要な子が多く 部屋が足りない。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	1	・毎月職員全員で目標設定をすることで全体周知ができることと客観的な目線で考える事が出来て偏りが無い。	・できているが勤務時間等により詳しく話す時間はない。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	1		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	3		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	11			
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	2		
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	11			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	11		・日常で話し合う時間がある。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10	1		・人数が多くなり詳しく伝えるのが難しくなっている。
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10	1		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10	1	・その日の子どもに合わせて活動の内容を減らしたりなど工夫している	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	11			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	11		・担当以外の職員が付くことで偏ることなく支援ができる。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9	2	・職員全員と共有することは難しいが、短時間の職員がいる時間にも職員会議を行うように工夫している。	・できないことがある。 ・朝話し合ったことを少しの時間でいいので毎日みんなで振り返りの時間があるといい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11			
	23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	1		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	1	・併用園に定期的に見学に行く機会がある為保護者との話し合いもスムーズで目標も立てやすい。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10	1		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11			
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	9	2	・センターは、まだないので青い鳥医療療育センターの地域療育支援事業により、助言を受けている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8	3	・保育園に自由に遊びに行く事が出来る	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	11		・日頃から療育だけでなく色々な話をする事で話しやすい関係作りを心掛けている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	1		
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	11			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	1	・定期的だけでなく、随時保護者からの相談を受け助言している。	・もっと聞いて欲しいと思っている親がいると思う。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8	3	・きょうだい児の交流する機会は設けていないが、保護者からのきょうだい児の相談を受け助言している。	・保護者の支援、兄弟に関する支援も行っているが、兄弟同士での交流までは、年齢的に小さいので、行っていない。 ・きょうだい同士で交流する機会はない
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	11		・できる限り対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	3	・毎月園だよりを発行している。 ・必要な内容は、園から保護者会の会長にメールをし、保護者へLINEで連絡を入れてもらっている。	

	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	11			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10	1		
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	8		・コロナになってから、地域との交流機会が失われたので、少しづつ、復活できるよう、何ができるか考えていく必要がある。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10	1		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	1		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10	1		
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	2		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10	1		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10	1		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10	1		・その状況になる前に保護者に確認を取るなどしている。